

はだの歴史博物館 令和5年度 企画展
丹沢山麓の縄文集落
— 秦野の縄文土器 —
令和5年4月25日(火)～7月9日(日)



丹沢と秦野盆地

はじめに

秦野市は丹沢山地の南に形成された盆地に広がっています。この秦野盆地は、東・北・西の三方を標高 1490.9m の塔ノ岳を筆頭に雄大な山々に囲まれ、南は渋沢丘陵に遮られています。

市内を流れる河川の多くは、丹沢山地に源流を有し、盆地中央部を流れる水無川や葛葉川・金目川などがあります。これら河川によって形成された起伏に富む自然環境が豊かな場所には、先人たちの足跡が認められます。市内の約 200 か所を超える数の遺跡を見ると、縄文時代の遺跡は市内各所で発見されています。今回はこれら各遺跡から出土した縄文土器を紹介します。

秦野の縄文遺跡

自然環境に恵まれた縄文時代の丹沢山麓には、多くの集落が営まれており、市内で発掘調査された内容からもそれを裏付けることができます。

縄文時代は1万年間以上も持続した

社会です。今回は縄文文化を象徴する土器について着目します。その内容は様々な器形や文様から構成され、造形美のみならず各時代の社会背景が反映されていると考えられます。

これら縄文土器から自然環境と共生した生活を想像できるかもしれません。

寺山・寺山金目原遺跡



1 寺山遺跡 配石墓群

秦野市寺山に所在し、秦野盆地の北東、金目川の上流域にある縄文時代

中期～後期の遺跡です。大正 12(1923)年にはその存在が知られ、昭和 10(1935)年に発掘調査が行われています。

発見された遺構は、竪穴建物のほか、配石墓と呼ばれる墓域が発見されています。配石墓の平面形は楕円形や長方形で、掘り込みの周囲や両端部に川原石を配置しているものがあります。副葬品として小型の鉢形・壺形・注口土器などが出土しているものもあります。その他、祭司的な用途が考えられる石棒や独鈷石と呼ばれる石製品の出土が特筆されます。

そやふきあげ 曾屋吹上遺跡

秦野市曾屋に所在し、水無川左岸の河岸段丘上に広がる遺跡です。これまでの調査で、後期の柄鏡形(敷石)竪穴建物などが密度高く発見されています。なかでも列石状配石遺構と呼ばれる列石は竪穴建物をつなぐよう等高線に沿って広範囲に形成されていることが大きな特徴となっています。



2 曾屋吹上遺跡
柄鏡形(敷石)竪穴建物

竪穴建物(※)

一般に「竪穴住居跡」・「住居跡」・「住居」などと呼称されていますが、発掘調査の手引き(独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所 2010)で、「これら建物については『竪穴住居』という名称が長く用いられてきた。しかし、すべてが住居であったわけではなく、工房など、住居施設以外のものも存在する。そのため掘立柱建物や礎石建物などの用語との対応関係も考慮して竪穴建物と呼ぶことにする。」との見解に従ってここでは「住居」を「竪穴建物」または「柄鏡形(敷石)竪穴建物」と呼称しました。

〈引用文献〉奈良文化財研究所 2010「第3節 竪穴建物」『発掘調査の手引き』集落遺跡発掘編

竪穴建物(※)は、柄鏡形(敷石)竪穴建物と呼ばれるもので、出入り口が張り出します。床面には石が敷かれていることも特徴で、中期末葉から後期前葉にかけて、関東山地周辺部を主体に分布します。なぜ、これほどまでに床面に石を敷き詰めるのか、まだその説明には至っていません。

たいがくいん 太岳院遺跡



3 太岳院遺跡 竪穴建物

秦野市今泉に所在し、秦野盆地南東部にあたる標高 100mの微高地上に位置します。盆地内に発達した扇状地の先端部には湧水が多く認められます。遺跡はこの湧水地近くに広がっています。これまでの調査で、中期～後期・晩期の遺構や遺物が発見されています。後期の配石墓は、墓標のように石が組まれた配石遺構と埋葬施設の掘り込みが発見されていることが特徴です。また一部の遺構からは人骨や翡翠製の勾玉などの装身具が出土しています。

その他、類例の少ない手燭形土器や土偶などの出土も特筆されます。

ひらさわどうめい 平沢同明遺跡



4 平沢同遺跡 遺構群

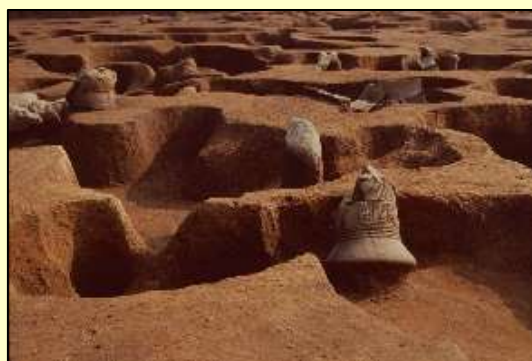
秦野市平沢に所在し、太岳院遺跡とは約 1 km 離れていますが、同様に湧水地の近くに広がる遺跡です。神奈川県指定文化財の弥生時代前期壺形土器が出土した著名な遺跡です。

これまで調査は 10 回以上実施されましたが、部分的な範囲での発掘であ

るため、全体は明らかではありません。

しかし後期～晩期の豊富な資料が出土していること、東海地方や中部地方など異系統の土器が認められることから当該期の中核的な集落であること、縄文時代の終末期から弥生時代初頭期に継続することなど、縄文時代の交流や文化を考える上でも、多くの点でたいへん興味深い遺跡です。

ひがしかいと 東開戸遺跡



5 東開戸遺跡 土坑群

秦野市下大槻に所在し、金目川右岸にあたる標高 70mの台地上に広がる中期を主体とする遺跡です。竪穴建物・柄鏡形(敷石)竪穴建物・配石・土坑・ピットなどの遺構が極めて密度高く発見されています。

21 号土坑と呼ばれる遺構からは翡翠大珠、22 号土坑と 157 号土坑からは琥珀大珠が出土しています。これらは土坑墓と考えられるもので、それに伴う装身具や副葬品であると言えます。翡翠は新潟県糸魚川・琥珀は千葉県銚子で産出する石材であることから、各地方との交流や文化を考える上でも貴重な情報を提供するものです。3 点

の大珠は秦野市指定文化財となっています。

堂坂遺跡

秦野市渋沢に所在します。盆地の南部にあたり、大磯丘陵裾部を流れる室川流域に形成された遺跡です。

これまでに複数の調査が実施され、中期～後期を主体とすることが明らかとなっています。

発見遺構は石囲炉を有する竪穴建物や配石・埋設土器・土坑などで構成された集落です。遺物は、土器や石器などが密度高く出土しているほか、土製品の蓋や土偶脚部、石製品の垂れ飾りが認められることも特筆されます。

東北久保遺跡

秦野市南矢名に所在し、昭和51(1976)年に発掘が行われています。遺跡は大根川に面する標高90mの台地上に形成され、調査では前期後葉期の竪穴建物が発見されています。この時期の竪穴建物は県内でも少なく、貴重な発見例です。

出土した土器は、前期後半土器の典型的な特徴を有している深鉢形土器です。土器の縁につけられている突起は、イノシシの顔が抽象的に表現されたものです。

今泉遺跡群遺跡

今泉遺跡群は秦野市今泉に所在し、今泉峰遺跡と今泉向原遺跡があります。渋沢丘陵北部にあたる標高120mの平坦部に形成されています。

今泉峰遺跡は、竪穴建物22基・集石4基・野外炉10基・土坑10基が発見されています。

竪穴建物の時期は中期後半期10基・中期末葉～後期初頭期5基・後期1基・時期不明6基で、中期後半期～後期初頭期にかけて遺跡の主体があります。

今泉向原遺跡は、環状に分布する集石1・土坑10基が発見されています。

おわりに

近年実施された新東名高速道路建設事業に伴う発掘調査により、これまで調査事例の少なかった丹沢山地裾部について、遺跡の具体的な様相が明らかになっています。

大型中空土偶の発見された菩提横手遺跡や縄文中期～後期の大集落が発見された稲荷木遺跡など、多くの成果が得られています。

これらは市内で蓄積された情報と併せて検討することにより、郷土秦野の歴史がより克明に捉えられるとともに、考古学に大きく寄与するものです。今後、その研究のさらなる進展と成果が期待できます。

発行 令和5(2023)年4月25日

編集 〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下 380-3

はだの歴史博物館 Tel.0463-87-5542 FAX 0463-87-5794